

関東の麦をめぐる事情について



令和7年1月

関東農政局生産部生産振興課

1 作付面積及び収穫量の推移

- 関東における4麦の作付面積は全国の13%となっている。茨城、栃木、群馬、埼玉が主産県となっており、水田で米の生産調整作物として麦の生産に取り組んでいる地域が多い。
- 麦種別では、小麦の作付面積は近年横ばいで推移しており、令和5年産については、作付面積は2万2,100ha（全国の9.5%）、収穫量は、対前年103%の7万9,100 t（全国の7.2%）となった。大麦・はだか麦の作付面積も、近年横ばいで推移しており、令和5年産については、作付面積は1万6,590ha（全国の28.3%）、収穫量は、6万,400 t（全国の28%）であった。

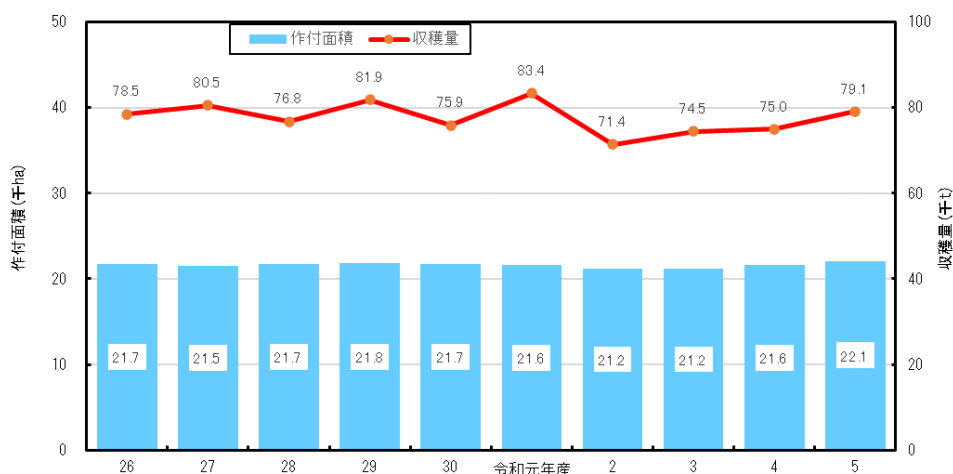
○ 管内各都県における麦の作付面積及び収穫量（令和5年産）

(単位：ha、t)

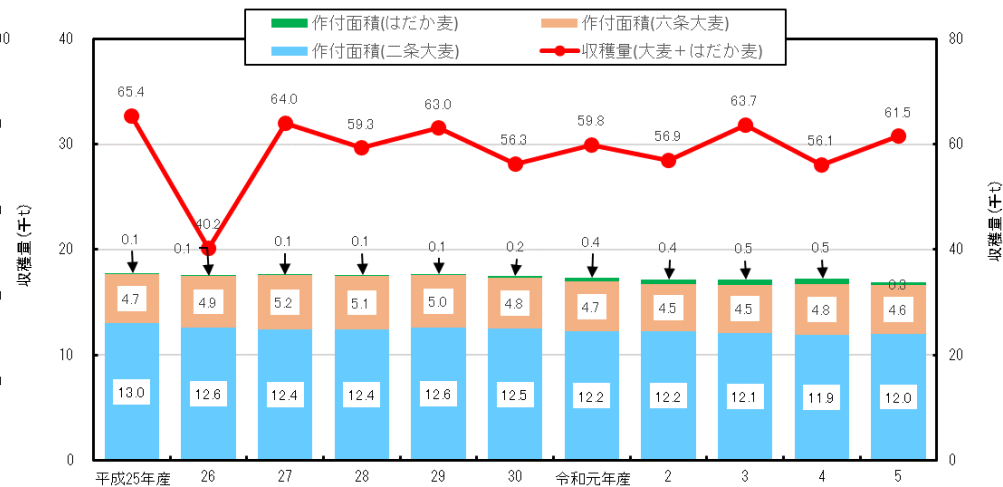
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	山梨	長野	静岡	管内計	全国
小麦												
作付面積	4,890	2,480	5,330	5,550	757	11	39	79	2,270	719	22,100	231,700
収穫量	15,400	8,630	22,400	22,000	2,620	18	83	243	6,150	1,850	79,100	1,094,000
二条大麦												
作付面積	942	8,570	1,720	714	x	1	-	-	16	20	12,000	38,900
収穫量	2,240	35,300	6,300	2,890	x	2	-	-	39	70	46,800	151,300
六条大麦												
作付面積	1,460	1,720	509	142	39	-	-	39	682	x	4,590	19,600
収穫量	3,560	5,070	1,680	643	139	-	-	86	2,440	x	13,600	64,400
はだか麦												
作付面積	253	41	1	76	-	-	x	-	-	x	x	5,520
収穫量	650	130	3	261	-	-	x	-	-	x	x	16,600
4麦計												
作付面積	7,540	12,800	7,560	6,480	x	12	x	118	2,970	x	39,100	295,700
収穫量	21,900	49,100	30,400	25,800	x	20	x	329	8,630	x	140,900	1,326,000

資料：農林水産省「作物統計」 (注) 1 ラウンドの関係で、合計と内訳が一致しない。 2 表中の「-」は事実がないものを、「x」は数値が公表されていないことを示す。

○ 管内における小麦の作付面積及び収穫量の推移



○ 管内における大麦・はだか麦の作付面積及び収穫量の推移

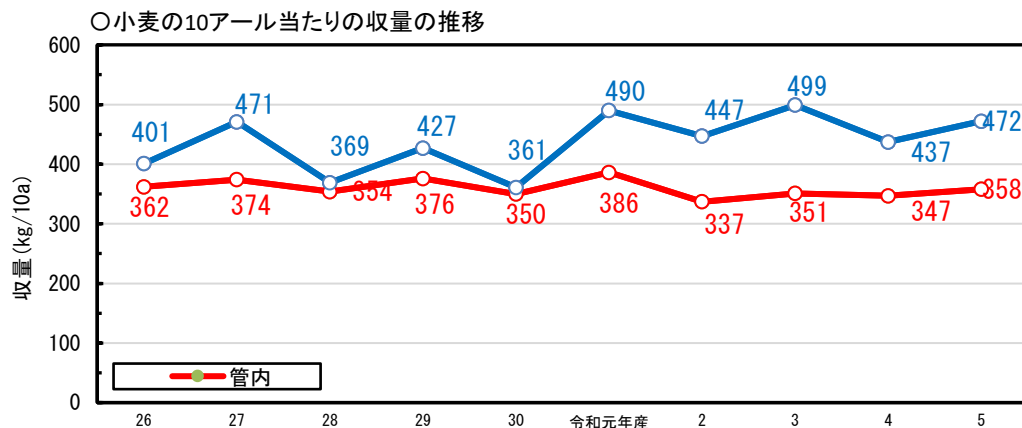


資料：農林水産省「作物統計」

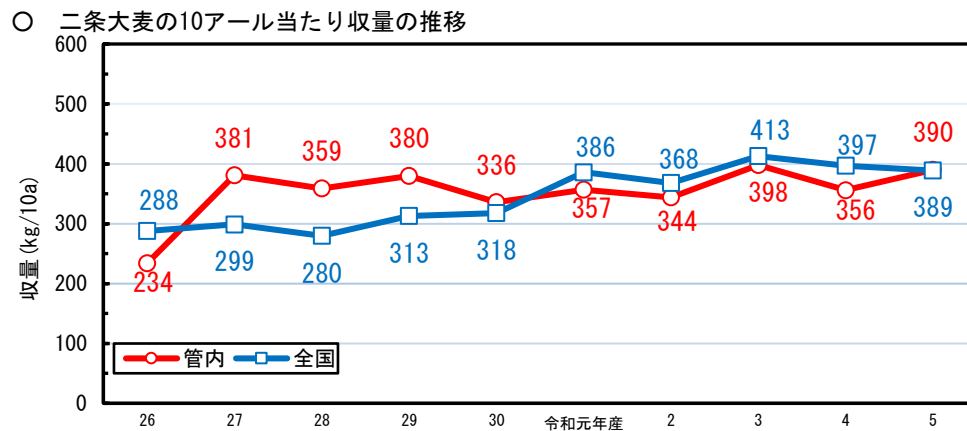
(注) はだか麦の平成30から令和5年産の作付面積及び収穫量は公表されていないため、4麦計から他の麦種を除いた数値。

2 単収の推移

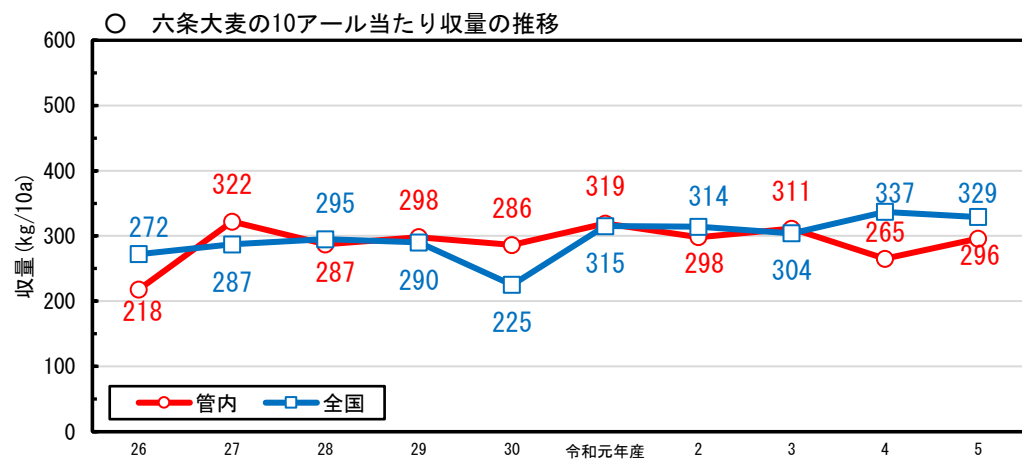
- 麦類は湿害に弱く、春先の遅霜や収穫期の長雨等の天候に左右されやすい作物であるため、単収の年次変動が大きい。特に、二条大麦、六条大麦及びはだか麦は産地が限定的であり、局地的な長雨等の天候不順が単収低下に大きな影響を及ぼしている。
- 管内の令和5年産4麦の10a当たりの収量(単収)は、小麦は362kg/10a(全国平均収量比77%)、二条大麦は390kg/10a(同100%)、六条大麦は296kg/10a(同90%)、はだか麦は282kg/10a(同94%)となっており、二条大麦以外は全国平均に比べ低くなっている。



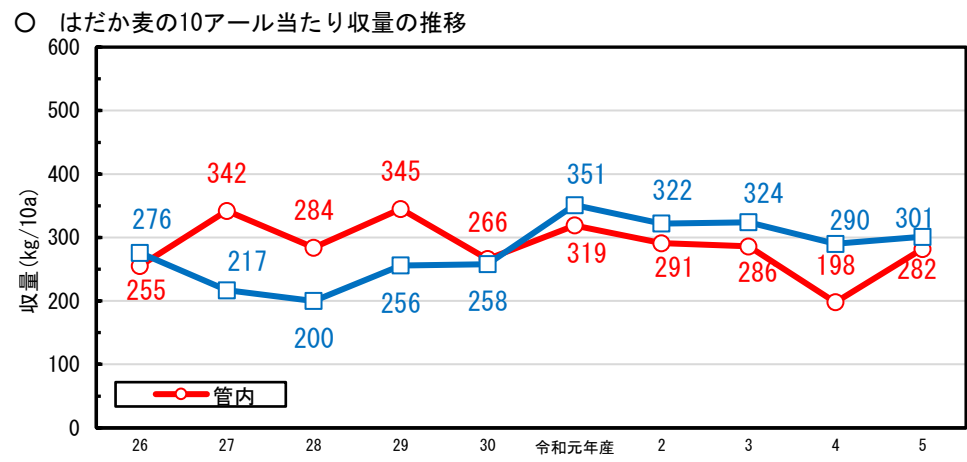
資料：農林水産省「作物統計」



資料：農林水産省「作物統計」



資料：農林水産省「作物統計」

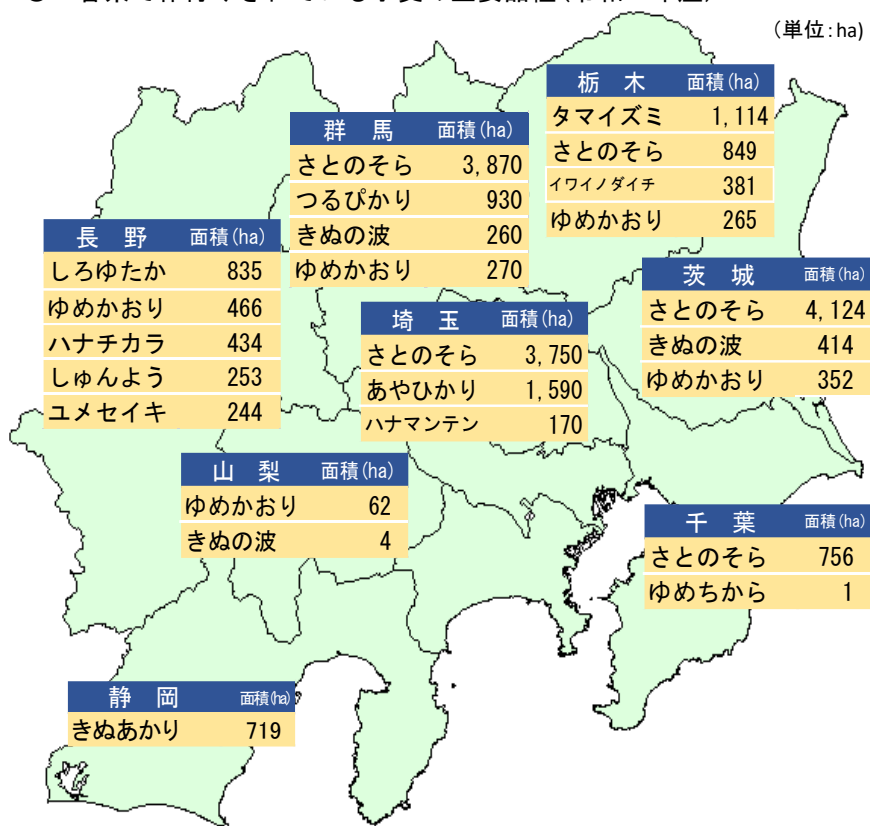


資料：農林水産省「作物統計」

3 各県で作付けされている小麦の主要品種

- 国産小麦品種の多くは、たんぱく質の含有量が中程度であるため、日本めん用に適している。管内では、以前は日本めん用の「農林61号」が多くの県で作付けされていたが、近年、その後継品種である「さとのそら」への転換が進み作付面積の6割を占めている。
- また、近年、日本めん用以外の用途の品種が育成され、茨城県、栃木県、群馬県、山梨県、長野県では、パン用品種の「ゆめかおり（長野県育成）」の作付が進んでいる。

○ 各県で作付けされている小麦の主要品種(令和5年産)



○ 「さとのそら」の特徴について

「さとのそら」(群馬県育成。平成22年10月13日品種登録済)については、管内における小麦の主要品種である「農林61号」と比較して、

- ・ 出穂・成熟が早い
- ・ 短稈で耐倒伏性が強い
- ・ うどんこ病、コムギ縞萎縮病などへの抵抗性が強い
- ・ 穂数が多く、多収

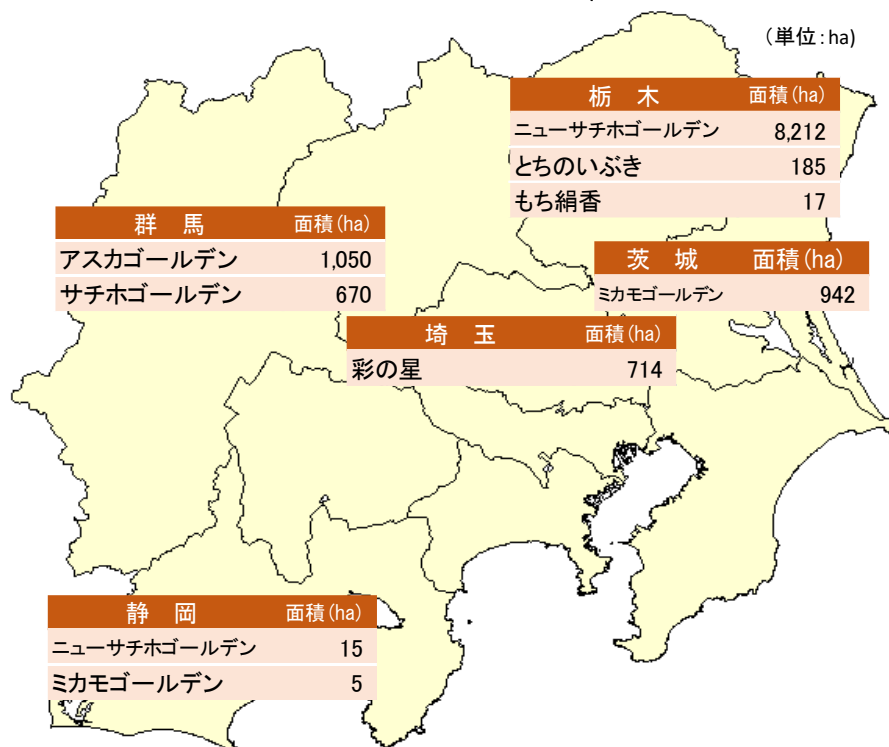
といった特性があることから、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県を中心に普及している。



3-2 各県で作付けされている大麦・はだか麦の主要品種

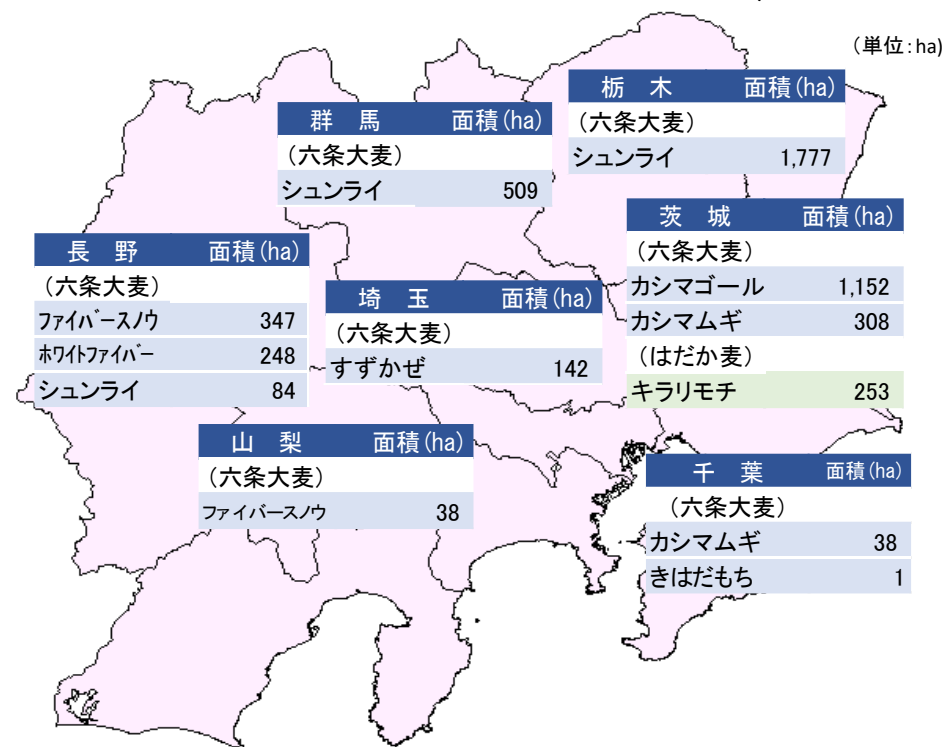
- 二条大麦はビールや焼酎、六条大麦は麦ごはんや麦茶、はだか麦は麦ごはんやみその原料に適している。
- 二条大麦では、「ニューサチホゴールデン」（栃木県、静岡県）、「ミカモゴールデン」（茨城県、静岡県）、「アスカゴールデン」（群馬県）などが作付されている。
- 六条大麦では、「カシマムギ」（茨城県、千葉県）、「シュンライ」（栃木県、群馬県、長野県）、「ファイバースノウ」（山梨県、長野県）などが作付されている。
- はだか麦では、「キラリモチ」（茨城県）などが作付されている。
- また、各県で開発されたもち性で麦ごはんに適した新品種（栃木県：二条大麦「もち絹香」、長野県：六条大麦「ホワイトファイバー」）の作付が進んでいる。

○ 各県で作付けされている二条大麦の主要品種(令和5年産)



資料：農林水産省穀物課調べ

○ 各県で作付けされている六条大麦・はだか麦の主要品種(令和5年産)



資料：農林水産省穀物課調べ

3-3 今後普及が期待される品種

近年、国産需要に対応した品種が長野県等で開発されており、小麦ではパン用品種の「ゆめかおり」や、六条大麦では食物繊維が豊富な「ホワイトファイバー」、はだか麦では、もち性で食感のよい「キラリモチ」などを使用した製品が増えつつあり、今後の普及が期待されている。

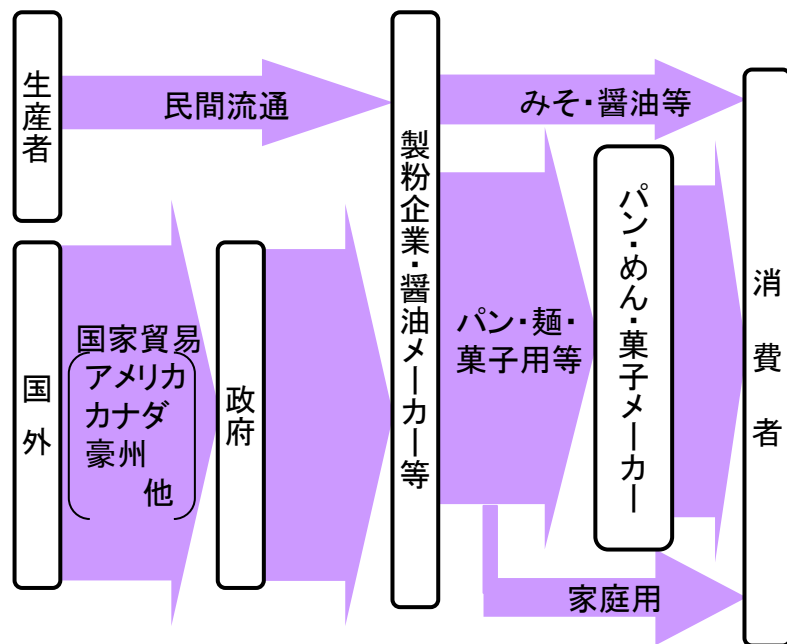
麦種	品種名	主な用途	育成機関	主な特徴	備考
小麦	ゆめかおり	パン用	長野県農業試験場	・小麦粉の吸水性が高く、カナダ産の「1CW(No.1 Canada Western)」と同等の製パン製である。	品種登録 (2010年10月13日)
				・萎縮病、赤さび病に強く、「ユメアサヒ」に比べ、早熟で倒れにくく、収量性が優れている。	
六条大麦	ホワイトファイバー	麦ごはん用	長野県農業試験場	・もち性の大麦である。	品種登録 (2019年4月23日)
				・糖質の吸収コントロールや血中コレステロールの抑制などの効果がある水溶性食物繊維β-グルカンの含量が従来品種「シュンライ」よりも高い。	
はだか麦	キラリモチ	麦ごはん用	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構西日本農業研究センター	・硝子率が「シュンライ」よりも低く、精麦白度が優れる。	品種登録 (2012年12月28日)
				・もち性の二条大麦である。	
				・もち性であるため食味が優れ、機能性成分のβ-グルカンがうるち性品種よりも1.5倍程度多く含まれる。	
				・ポリフェノール的一种で褐変の原因となるプロトシアニンがほとんど含まれておらず、炊飯後の褐変がほとんど見られず、麦ごはんが白いままで色相に優れている。	

資料：農林水産省、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、長野県農業試験場各資料

4 麦の流通と価格の推移

- 国内産麦の生産者団体と実需者の取引価格を透明性のある適正なものとするため、一定数量以上（産地銘柄別に販売数量が小麦3千トン以上、大麦・はだか麦1千トン以上）の銘柄について、は種前に販売予定数量の3～4割（具体の比率は民間流通地方連絡協議会の協議を踏まえ決定）は入札取引が行われ、残りの数量は相対取引が行われている。相対取引価格については、入札取引で形成された指標価格を基本として、引取当事者間で決められている。
- 国内産麦の価格については、国内の需要動向や輸入麦の価格等の影響により毎年変動しており、また、同一品種であっても産地により実需者の評価が異なることから価格差が生じている。
- 令和5年産の小麦価格については、①中国の旺盛な買付け、②海上運賃の上昇、③米国・カナダ産小麦の不作、④ウクライナ情勢の変化による供給懸念等により大きく上昇した。

○ 食用小麦の流通のイメージ



○ 麦の指標価格（税抜）の推移

（単位：円/トン）

	産地	銘柄	令和2年産	3年産	4年産	5年産	6年産
小麦	茨城	さとのそら	43,512	43,215	44,180	64,169	65,639
	群馬	つるぴかり	48,975	49,500	50,851	75,100	84,673
		さとのそら	43,529	42,615	46,469	67,561	68,660
	埼玉	あやひかり	42,677	42,179	45,693	70,216	74,290
		さとのそら	42,378	40,673	43,250	65,760	71,094
		全国（加重平均）	60,253	52,516	49,810	64,637	66,919
大粒（二条）大麦	茨城	ミカモゴールドン	28,432	28,432	28,479	30,571	33,571
	栃木	ニューサチホゴールドン	32,291	32,313	29,769	31,051	32,705
		全国（加重平均）	37,636	30,955	37,850	41,160	45,351
小粒（六条）大麦	茨城	カシマムギ	45,268	45,268	45,268	46,283	46,638
		カシマゴール	39,490	39,490	39,490	40,490	41,490
	栃木	シュンライ	38,217	38,304	38,455	38,794	39,281
	群馬	シュンライ	38,116	37,776	37,816	37,844	37,994
	長野	ファイバースノウ	39,016	38,986	37,868	38,034	38,058
		全国（加重平均）	43,144	43,037	42,463	42,353	42,824

資料：一般社団法人全国米麦改良協会「民間流通麦に係る入札結果」による。

1. 指標価格とは、落札価格を落札数量で加重平均したものである。
2. 価格は、ばら、1等、産地倉庫在姿である。

5 今後の麦の生産振興について(需要に応じた生産)

現状

近年の関東管内の主産県における麦の作付動向については、ほぼ横ばい。

○ 4麦合計の作付面積の推移(管内主要県)

県名(5年産全国順位)	令和元年産 (ha)	2年産 (ha)	3年産 (ha)	4年産 (ha)	5年産 (ha)	前年産比
茨城県 (9位)	7,860	7,590	7,380	7,610	7,540	99%
栃木県 (4位)	12,600	12,700	12,600	12,700	12,800	101%
群馬県 (7位)	7,650	7,650	7,630	7,530	7,560	100%
埼玉県 (10位)	6,100	5,990	6,050	6,270	6,480	103%
長野県 (19位)	2,810	2,750	2,830	2,960	2,970	100%
管内	38,900	38,300	38,300	38,800	38,300	99%
全国に占める管内の割合	14.2%	13.9%	13.5%	13.4%	13.0%	—
全国	273,000	276,200	283,000	290,600	295,700	102%

資料：農林水産省「作物統計」

○ 国内産食糧用麦の販売予定数量及び購入希望数量の推移(全国)

小麦は、平成28年産から令和2年産までは供給量が需要量を下回る状況が続いていたが、3年連続の豊作により、令和3年産からは供給量が需要量を上回る状況に転じている。

大麦、はだか麦は、令和3年産を除き、供給量が需要量を下回る傾向が続いている。

(単位:千トン、%)

	年産	平成26	27	28	29	30	令和 元	2	3	4	5	6
小麦	販売予定数量①	905	880	820	846	834	824	809	864	887	955	968
	購入希望数量②	751	802	834	875	880	863	880	813	796	843	873
	①-②	154	78	▲14	▲29	▲46	▲39	▲72	51	91	111	95
	(①-②)÷①(%)	17	8.9	▲1.8	▲3.4	▲5.5	▲4.7	▲8.9	5.9	10.3	11.7	9.9
大麦・ はだ か 麦	販売予定数量①	110	112	113	112	108	108	120	129	129	135	145
	購入希望数量②	141	149	145	138	148	130	123	93	142	175	188
	①-②	▲31	▲37	▲32	▲26	▲39	▲22	▲3	35	▲14	▲40	▲43
	(①-②)÷①(%)	▲28.2	▲33.0	▲28.4	▲23.4	▲36.3	▲20.4	▲2.2	27.5	▲10.5	▲29.6	▲29.5

資料：農林水産省「麦の需給に関する見通し」

※民間流通連絡協議会調べ。 ※四捨五入の関係で差し引きが一致しないことがある。

課題と対応

関東農政局においては、実需者からのニーズや管内主要県等の生産動向の把握、試験研究機関における新品種の育成等に係る情報共有を図っており、今後とも需要に応じた麦生産に係るフォローアップを行っていく。

＜実需者の要望＞

- ・播種前契約数量の確保
- ・用途別の適正なたんばく質の含有量等品質の向上、均一化
- ・異種穀粒、異物の混入防止と混入時の対処

＜産地の抱える課題＞

- ・排水不良等のほ場条件により、産地間、生産者間で品質にバラツキが生じる
- ・天候不順や連作障害等で収量が安定しない

＜産地・県による対応＞

- ・需要に応じた増産計画の策定と作付の誘導
- ・担い手への農地集積による規模拡大
- ・排水対策、適期適量追肥、病害防除の徹底
- ・播種時期に合わせた播種量と適期収穫の指導
- ・開花期の葉色診断による追肥及びたんばく分析の実施
- ・カラスムギ等の発生が深刻化している農地での休耕や他品目の作付等

6 全国麦作共励会 関東地域優良事例

令和5年度（集団の部）
全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞
農事組合法人 稲荷（群馬県伊勢崎市）

経営概要

集団構成員：5名
（メインオペレータ3名）
麦作付面積：31.6ha
単収：小麦（さとのそら）492kg/10a



技術・経営等の特色

- 砕土・整地を丁寧に行い、排水性の悪い圃場はサブソイラで心土破碎。降雨後、土壌水分が高い状態での無理な播種は行わないようにする等の湿害対策を行っている。
- 播種同時施肥により作業の効率化と肥料費削減を図っている。追肥は、茎立ち期の麦を痛めないよう、背負式動力散布機（ミスト噴頭）を使用し、少量の硫安を均一散布する。
- 種子更新率は100%。適期の雑草防除と赤かび病防除も徹底し、5年産は1等比率100%（県平均88.3%）となった。
- 栽培面積の多い「さとのそら」は所有するライスセンターで、「サチホゴールド」はJAのカントリーエレベーターで乾燥調製を行う。自社ライスセンターの利用により、搬入時間の短縮・乾燥調製料を削減する。
- 構成員以外にも農作業・農業機械操作の研修を実施。若手農業者育成に積極的に取り組み、次世代への継承を行う土台作りにも尽力。



所有するライスセンターの外観と内観



踏圧効果の高いK型ローラーを用い、麦踏み回数を削減



令和4年度（農家の部）全国農業協同組合連合会会長賞
株式会社 新山（栃木県真岡市）

経営概要

麦作付面積：23.5ha
単収：
六条大麦（シュンライ）451kg/10a
二条大麦（ニューサチホゴールド）
361kg/10a



技術・経営等の特色

- 額縁明渠を設置するとともに、特に排水性が悪いほ場には、ほ場中央に排水溝を設置。また、サブソイラによる心土破碎でほ場の浸透排水性を確保するなど、排水対策を徹底。
- 生育量確保のため、稲わらのすき込み後、ほ場が乾いてからスタブルカルチで深さ15cm程度に作土を増やし、グランドハローで土塊の粉碎と床締めを行うなど、丁寧な耕起・整地を実施。
- 鶏糞散布や適正な基肥、追肥の施用、5回以上を目標に実施する麦踏みにより、管内平均以上の収量を確保。
- 農地の集積・集約と合わせて、大型機械化一貫作業や、ロボットトラクター、自動操舵システム、ドローン、クラウド型営農管理システム等、多数のスマート農業を導入し、作業の効率化・省力化を図っている。



ロボットトラクターによる耕起作業



ほ場周囲に額縁明渠を設置

小麦・大豆の国産化の推進

【令和7年度予算概算決定額 35(50)百万円】
 (令和6年度補正予算額 5,008百万円)
 〔関連事業：共同利用施設の整備支援等 19,952百万円の内数〕
 令和6年度補正予算 51,000百万円の内数

<対策のポイント>

産地と実需が連携して行う**小麦・大豆の国産化を推進**するため、ブロックローテーションや営農技術・機械の導入等による**生産性向上**や**増産**を支援するとともに、国産小麦・大豆の安定供給に向けた**ストックセンターの整備**※や民間主体の一定期間の保管、**新たな流通モデルづくり**、更なる利用拡大に向けた**新商品開発**等を支援します。
 ※関連事業で支援

<事業目標> [平成30年度→令和12年度まで]

○ 小麦生産量の増加(76万t→108万t) ○ 大麦・はだか麦生産量の増加(17万t→23万t) ○ 大豆生産量の増加(21万t→34万t)

<事業の内容>

国産小麦・大豆供給力強化総合対策

35(50)百万円

【令和6年度補正予算】5,008百万円

① 生産対策(小麦・大豆生産技術向上事業)

小麦・大豆の増産を目指す産地に対し、**作付けの回地化、ブロックローテーション、営農技術・農業機械の導入**等を支援します。

② 流通対策

ア 小麦・大豆供給円滑化推進事業

国産小麦・大豆を一定期間保管することで安定供給体制を図る取組を支援します。

イ 新たな小麦流通モデルづくり事業

小麦の流通構造の構築に向けた**新たな流通モデルづくり**を支援します。

③ 消費対策(小麦・大豆利用拡大事業)

国産小麦・大豆の利用拡大に取り組む食品製造事業者等に対し、**新商品開発**等を支援します。

(関連事業)

強い農業づくり総合支援交付金

11,952百万円の内数

新基本計画実装・農業構造転換支援事業

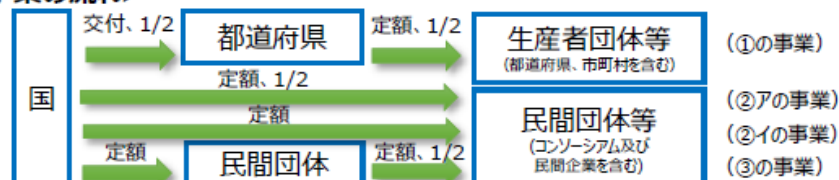
8,000百万円の内数

【令和6年度補正予算】40,000百万円の内数

産地生産基盤パワーアップ事業 【令和6年度補正予算】11,000百万円の内数

産地と実需が連携して国産小麦・大豆の取扱数量を増加させる取組を推進するため、増産に資する**乾燥調製施設の導入**、不作時にも安定供給するための**ストックセンターの整備**、国産小麦・大豆の利用拡大に向けた**食品加工施設の整備**や**再編集約・合理化**等を支援します。

<事業の流れ>



【お問い合わせ先】

(①、②ア(大豆)、②イ、③(大豆)の事業) 農産局穀物課 (03-6744-2108)

(②ア(麦)、③(麦)の事業) 貿易業務課 (03-6744-9531)

<事業イメージ>

1. 生産対策



営農技術の導入
(定額)



農業機械の導入
(1/2以内)



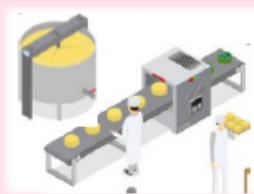
乾燥調製施設の整備※
(1/2以内)

2. 流通対策



・ ストックセンターの整備※ (1/2以内)
 ・ 一定期間の保管 (定額、1/2以内)

3. 消費対策



・ 新商品の開発 (定額、1/2以内)
 ・ 加工設備・施設の導入※ (1/2以内)

※関連事業で支援

小麦・大豆の国産化を一層推進